

## 本当はあの子と行きたい気持ち

一月十四日 火曜日 本当はあの子と行きたい気持ち

昨夜、強い風と共に、雨がはげしく降り、その音は大変すさまじいものだった。

朝、まだ雨が降っていた。

しかし、冬にしては、常ならぬ暖かさである。

オーバーを着て行くのはやめ、その代わり、毛糸のジャケツを着て行く。

学校での生活には、大した変化はない。

七時間目のホームルームの時間、

担任の小山先生は、我々、思春期の少年に対して読書を勧めた。それも、特に、我々の思春期の道しるべとなる本である。

しかし、僕は、それは必要ないと思った。

それは一種の娯楽であり、必需的なものではないと思う。

そして、先生は次の様なことも言った。

「女の子が気になり、何時間も、

夢想に時間を過ごすのはよせ、

それは無駄な事だ。

そんなに気になるなら、直接に会うことだ。」

僕はその通りだと思う。